

# 新山協ニュース

会長 藤井 信  
新潟県山岳協会  
長岡市学校町3-11-7  
TEL 0258-32-4835

事務局 土田幸雄  
長岡市中沢4-426-4  
TEL 0258-39-2700

編集者 遠藤家之進正和  
白根市大字鷺ノ木新田1049  
TEL 025-362-5004

## 親睦登山に参加して

長岡ハイキングクラブ

渡 辺 鉄 男

紅葉真只中の浅草岳親睦登山が10月21、22日に行われ34名の参加者が音松荘に集った。

田辺実行委員による開会宣言の後、去る6月18日浅草岳

山麓で山菜取りの遭難救助に向い、警官の方々と共に尊い犠牲になられた音松荘主人の御冥福を祈り、一同一分間の黙禱が行われ、その後懇親会に入り、チョモランマを登頂された小林重一さんの話や、岳人の貴重な体験等興味深い語らいで会は盛り上がり、秋の夜長を和気藹々と楽しく過ごした。

翌22日6時40分宿を車で出発、五味沢林道登山口に集結、田中リーダーより登山時の注意事項など説明後、7時5分登山開始、登山口を見上げれば真っ赤なヤマモミジが我々を迎えてくれ、黄色く色づいたブナの下を通り抜けやゝ勾配のきつい坂を過ぎた頃、後を振り返ると守門岳が永い裾を広げている。

沢の向いに目をやれば黄や赤の色模様に染められた紅葉でしばし疲れを忘れさせてくれる。嘉平与のポッチを過ぎ前山付近から望める荒々しい鬼が面山は生憎のガスに隠れて見えず残念だったが、浅草岳山頂は晴れて目前である。

9時5分一等三角点(1・585・5m)の山頂到着、早速全員で記念写真に納まり、ここで自由解散となる。一行は入叶早津ルートを少し下り、見晴らしの良い草原で乾杯と早中食を摂る。誰かがお抹茶を運んで来てくれた。これこそ最高の野点である。山田さんの御手前でご馳走さまでした。

今日は絶好の登山日和に恵まれ、下山中は次から次へ引きも切らぬ登山者に出合い、登り優先の原則を守って立ち止まりが多くなり、お陰様で素晴らしい紅葉をたっぷり眺めながらの山歩きを満喫する事が出来ました。



色づく草原が広がる浅草岳山頂で

### 新年会案内

日時 2001年1月21日(日)  
15時開宴

会場 新潟市南万代1-8  
新潟厚生年金会館  
電話 025-243-3551

会費 6,000円

申込 〒956-0056  
新潟市大栄町5-8-15  
田辺信行  
電話 0254-24-8057

ハガキ・文書にて申込願います。

### 理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。

役員、理事、委員各位は午後1時までに参加願います。

# 近くて遠い山 カムチャツカ州(ロシア) アバチャ山(2741M) 登頂報告 ③

関川村山の会

横山 征平



アバチャ山山頂で県山協旗掲揚

## ・山頂鞍部

15: 50 山頂直下の鞍部に到着した。遠望したときのラクダのこぶとこぶの鞍部であった。種類は少ないが、鮮やかなピンクの花を付けたエゾツツジが岩影にへばりついていた。

山頂は岩石の乱れ積みのようになっており、崩壊の危険があり近寄れなかった。高原に塔のようにあるため、展望はよく、西にカリヤキ山3456m、東に明日登るアバチャ山2741m、眼下にプーチンゲレンデとスキー小屋、アバチャ高原キャンプ場と続く。

背後の南側はカリヤキ山の裾野が開け、パラグライダーで鳥になってみたい気を誘う。  
15: 50 下山開始。往路をキャンプ場へ。  
16: 47 キャンプ場着。夕食まで間があり一人歩きもできず、しばし小屋のスタッフと語学の勉強で時間を潰す。

## ・待望登山

7月27日

19: 55 漸く夕食にありつくが相変わらず粗食だ。地ビールも口にあわない。  
22: 30 物置山小屋に入るが、外壁が日中焼けているのか寝苦しい。遅い日没であった。

5: 50 起床 寝不足たたる。  
6: 30 朝食 快晴 吸い込まれる様な静寂の夜明けだ。  
7: 24 小屋で作ってくれた朝食持参で出発。スタッフは運転手のグレゴリ青年(25歳)通訳のアルビナ嬢(大学3年)現地ガイドのキリウ(21歳大学生)、アレクサンドル(17歳 大学生)の4人に私たち2人がしがたがった。荷物自分持ちだが正に殿様登山気分である。

・登山道  
キャンプ場から山頂へのルートはおおよそ下から見通せるが、今日一日で標高差2000mを往復しなければならぬ。いささか緊張した出発である。高原から日本と言う牛首尾根の急登である。  
8: 14 標高1200m地点で第1回目の一服。本格的な砂走り道をひたすら高度をあげてゆく。数回の休憩をいれ、

11: 36 には標高2000mに到達した。ここに事前に聞いていた山小屋があった。火山岩で覆われ良く見ないと入り口が分からないような小さな小屋だ。これを見たとき、初日にここまで来たいと言っていた断られた理由が分かった。山小屋には相違ないが、登山者が泊まれる小屋ではなかった。火山研究所の観測小屋らしい。アンテナがあり、どこかへコードもひかれていた。  
強烈な日差しを砂礫原で昼食にした。対するカリヤキ山が雪渓を抱きそそり立つ。目指すアバチャ山は逆光で、水化した雪渓が威容ながやきをみせた。このころ多少ガスの天気は安定している。  
12: 20 出発 このとき通訳のアルビナ嬢がこれ以上行けないと言って、日焼け止めのバンドナ覆面をして下って行った。優秀だが登山向きの体型ではない。肥りすぎだ。  
残る3人のスタッフは日本語が通じなく多少心配になったが予定通り山頂へ向かう。

## ・強烈なアリ地獄道

ここから牛首尾根道からそれ、山頂までの標高差700mは直登で、強烈なアリ地獄

道だ。

噴出して年数の経っていない砂礫は不気味に朱色をしている。踏み出せばずるずるの足をとられ、山小屋のマスターが持つて行けと言ってくれた2本のストックにすがる様な登行である。山頂到着予定の14：17でまだ中腹であり、頂上を踏めるのか焦った。

山頂近くの急斜面に補助ロープが付けてあったが、擦り切れて所々中の細い組糸が露出しており、頼れるものではなかった。

山頂の硫黄を含んだ噴煙が手の届く距離に迫って来たが足が重く歩かない。

・山頂に立つ

15：37 2741mの頂上に立った。四方かげるものが無い眺望に暫く感動した。

腰を下ろしたが火口壁は蒸気が噴出しており、荷物もカメラも風呂場に持ち込んだようにになった。

それより、火口をみてびっくり。9年前に噴出した溶岩が黒くせりあがり、擦りきり状になって、今にも周囲の釜から溢れそうになっている。

噴煙もあがり、火口壁は硫黄で黄色に染まっている。さ

ながら地獄絵図を見る風景に、

登頂の感激から恐怖にかわる心境である。報告用の県山協旗を掲揚した記念撮影をとる。

16：14下山開始。下りは脱兎の如くスピードを上げ、途中水河を横目に一時間で標高2000m当たりまで下り、18：39にはアバチャ高原キャンプ場に無事着いた。途中不調で下山の通訳アルビナ嬢は元気を取り戻し出迎えてくれた。

19：48山小屋食堂で夕食。20：15お世話になった小屋のスタッフに見送られ、ひたすらオフロードを下った。

増水で輪だちはかき消され、運転のグレゴリ青年の走路選定を悩ました。

22：00ペトロバプロフスクホテルに到着し登山は無事終わった。

7月28日はアバチャ湾クロージ視察。

7月29日無事帰国  
・あとがき

カムチャツカ州は夏の登山シーズンは短い、登山の対象として一考の価値ある地域である。

このためには、新潟からの直行便の就航、情報提供や航空運賃の軽減などが考えられ

る。また、登山と釣りを組み合わせたツアーなども面白い。

### 理事会報告

期日 平成12年10月21日

会場 音松荘

出席 室賀、内藤、藤井、橋本、山田、土田、井出、田邊、阿部、七沢、坂井、森、福田、渡辺、片桐

オブザーバー 小林 重一  
水落 竜馬

会長挨拶

中健康安全登山指導者講習会が盛況裡に終了したことに ついてのお礼と、弥彦神社平成大修営事業醸金が山岳関係で57万円に達したことへの協力お礼。

議事

1、各専門委員会報告等

(国体)

富山国体 男女総合16位、  
成年男子35位、少年女子13位。  
成年男子登攀競技6位入賞と  
少年女子の健闘光る。

(クライミング・ジュニア)  
スポーツ・クライミング競

技「JOCジュニアオリンピック

クカップ大会」開催が恒常化され、本年は第3回大会が埼玉県で開催されることになった。新潟県選考会を11月19日(日)長岡市パーマールで行う。(高校男女、中学男女、小学男女)

今後この全国大会に要する交通費・宿泊費等の支出について県山協として基準を決めてもらいたい旨、稲田委員長の提案について、意見を交わした。

主な意見は次のとおり。  
ジュニアを育成する必要性

## 第55回国体山岳競技

### 成年男子 クライミング競技6位入賞

10月15日から17日まで、

富山県五箇山地区で行われた第55回国体体育大会山岳競技会で本県青年男子選手

団は、クライミング競技において日頃の成果を遺憾なく発揮し、山形国体以来の堂々6位に入賞した。

選手が競技する姿は地元住民、応援者、競技役員に

大きな感動を与えました。

今後の活躍が期待されま

す。  
選手・監督の皆さん、感謝ありがとう。現地まで応援に駆けつけた皆さん、審判・競技役員の方々の協力に感謝申し上げます。

(森 記)

成年男子監督

選手

少年女子監督

- 阿部 信一
- 木所 英昭
- 岡本 哲男
- 春日 俊信
- 川村 欣誠
- 土田 佳奈
- 田巻 優子
- 小杉真佑美

については異議はない。  
現在の県山協会計の中からの支出は分担金の値上げをしなければ難しい。したがってカンパ、奉加帳方式で対応したらどうか。  
賛助会方式を考えたらどうか。

・県のジュニア育成助成事業に載せて助成金を申請したらどうか。  
・カンパが恒常化すると理事会の出席者が減少するのではないか。

・今後このような大会は年1回とは限らず開催回数が増加するのではないか。基準を決めた場合は歯止めがなくなり財政が持たない。

以上の意見集約の結果、基準は作成しない。今後の方向については、分担金値上げが難しい現状を踏まえ賛助会方式も視野に入れた対応を、会長・理事長・事務局長に一任するということと了解。

2、2巡目国体への取り組みについて

昨年秋の理事会で決定した

が具体化できなかったことについて理事長より事情説明あり。

13年1月理事会に提案する

という期限つきで再度理事長に一任。理事長は会長と相談し早急に原案を決定する。

3、平成12年度トップコーチ招請事業の取り組みについて

12・11・12開催の平成12年度競技向上対策事業(新山協ニュース164掲載)が該当。なお、阿部指導技術委員長より本年の指導員研修会を兼ねたいとの提案あり了承。各指導員宛て要項を送付する。

4、その他

(1) ホームページ立ち上げに伴う問題と対応について

ホームページのアクセスを見ると次のような問題がある。

・ある山岳会のホームページに県山協評議員議案書からとして加盟団体名簿を無断で掲載している。(代表者名とTELなども記載され

プライバシーの問題もある。)山の状況についての照会等が予測される。

(2) 県立新潟スタジアム(ビッグスワン)への入居希望について

県立新潟スタジアム完成に際して事務局入居希望についての照会があり、使用料・光熱費・電話回線使用料等詳細

は不明だが希望する旨返事。

(3) 県体育協分会分担金値上げについて

過日、県体協から理事長宛に加盟分担金引き上げについての電話連絡があった。それによると、現在賛助会員費を含め8万円が20万円となる。2巡目国体を見据えての値上げであり了解願いたい旨の話であった。

県体協改革ということで議論された一環ということだがリストラはどうなっているのか、財政内容はどうなっているのか、いずれにしても正式の話と詳細な説明を聞いた上で検討し、協会の態度を決定することとなった。

(4) 故五十嵐名誉会長夫人からの寄贈金の扱いについて

過日、五十嵐夫人が会長に主人から言い残されたからと協会ですべて頂きたいと100万円を持参された。

一般会計に入れると折角の意思が生かされなくなることも懸念されるので、方法については会長・理事長・事務局長に一任し、後日の理事会に報告することにした。

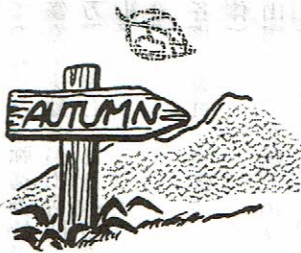
(5) 新潟・山岳写真集の発行について

新潟日報事業社から県山協監修の依頼があり基本的に了解。詳細は理事長がつめることとなった。

5、9月末中間決算事務局から中間決算について報告。

(土田記)

新潟日報事業社から県山協監修の依頼があり基本的に了解。詳細は理事長がつめることとなった。



## 登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

## 大新スポーツ

新潟市東堀通6 ☎(025)222-3736

## 登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)